

新宮山産ぐるーぷ第2199回

## 日本山岳会関西支部 前鬼山岳古道調査協力

◇実施日 8月27日(土)～29日(月)

◇参加者 沖崎吉信(27日泊、29日帰り) 梶野照雄(28、29日) 青木宏充、坂田洋子、今中三恵子(27、28日)

日本山岳会 中久保忠伸(CJ) 永井和(SJ) 豊田哲也(SJ) 新本政子、久保和恵、岩崎しのぶ、薦田佳一、野村康、深澤優子、森澤義信、横山規江、播戸日出生

日本山岳会は3年後の2025年に創立120周年を迎える。その記念行事として全国の山岳古道を調査し、「日本の古道120選」を公開する事業を開始している。

日本山岳会関西支部会員で我々も大変お世話になっている森澤義信氏が前鬼周辺の古道調査を強く推されたようで、今春、同関西支部より案内、同行について依頼があった。その後8月27日～29日に実施することが決まり、詳細の打ち合わせを続け当日を迎えた。

小池宿跡までピストン 8月27日(土) 曇一時雨

昼前に全員が小仲坊に集合、自己紹介や準備体操の後登山準備を整えた後、12時過ぎにスタートする。いきなりの渡渉や沢沿いの足場が悪い道を進み登り口に着く。「ええー こんなどこから登る

の？」と思われたことだろう。ここから一時間、テープを頼りに急登を続け、分岐尾根の広場に到着して休憩する。最年長の薦田さんは少々お疲れで、豊田さんが付き添って尾根で待つことになった。



すぐに沢を渡る



尾根広場に着く



下降開始

お二人を残して出発。尾根を下って涸れ沢を池郷川に下降する。涸れ沢は出だしが急な上に小石が多く足元が不安定なためゆっくりと歩を進めた。下りきると池郷川の源流部だ。原生林の植生の豊かさ、流れる水の奇麗さ、見渡した周りの雰囲気、どれをとっても素晴らしい、の一言で、皆さんも感激されたようだ。2～3回支流を渡り小池宿跡に着く。小池宿跡では石段付近を皆さんにもお手伝い頂いて清掃し線香を供えた。15分ほど滞在し来た道を引き返す。30分少々で尾根の広場に到着、待機していた薦田、豊田のお二人と合流する。尾根を過ぎると後は下りばかり。青木、坂田のお二人が先導して午後4時半過ぎに小仲坊に帰着した。午後6時から夕食とのことで、それまでの間、着替えや明日の準備を行う。「お風呂湧いてます」の声で女性陣から順次入浴したが、これが最高の風呂だった。



小池宿跡を清掃



五鬼助さんも加わり9時まで大賑わいだった。

夕食  
(記：沖崎)



### 行動タイム

小仲坊 12:15→13:42 尾根広場→14:25 小池宿跡 14:40→16:34 小仲坊

### 牛抱坂(前鬼道)の踏査 28日(日)曇時々晴れ

朝4時に家を出て、午前6時40分前鬼に着いた。ゲート手前の広場は車で一杯に、沢登りのグループが発準備中だった。小仲坊では日本山岳会の皆さん、沖崎さんや青木さんの顔も見える。総勢13名が車3台に分乗して牛抱坂の登山口に向かう。途中で登ってくる車が複数あり、離合に時間がかかった。午前7時40分登山口を出発、903mのピークを目指して急坂を登る。青木、坂田の両氏は9時過ぎに離脱して引き返した。この後前鬼川でクールダウンするそうだ。903mのピークを越し展望が開けて、大日岳、釈迦ヶ

岳、孔雀岳がよく見えている。



登りだす



903mから



トラバース

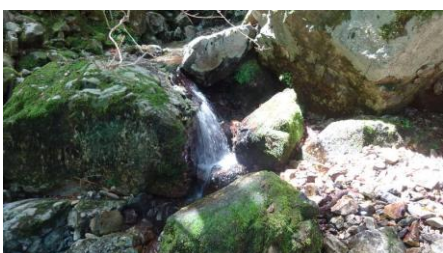
牛抱峠までは旧牛抱坂を通らず尾根伝いに上方を通過、途中からトラバースして牛抱峠の南西尾根に達し牛抱峠まで下る。



牛抱峠で



下る



ウリネ谷源頭

牛抱峠までは10分ほど下るの必要があり、旧牛抱坂よりもかなり上方を通ってきたことが判る。



で42分かかった。

(記：梶野)

### 行動タイム

小仲坊 07:05 → 牛抱坂登山口 07:30 → 11:53 牛抱峠 12:25 → 12:40  
ウリネ谷 → 14:13 休場の尾牛抱坂交差 → 14:25 林道ゲート → 14:30  
小仲坊

小池宿跡から嫁越峠までの踏査 29日(月)曇一時雨

植林の中を

牛抱坂との交差

林道に降り立つ

牛抱峠で昼食、食後ウリネ谷の源頭へ下る。ウリネ谷までは過去に通過したルートをなぞった。ウリネ谷は相変わらずきれいな水が流れている。ウリネ谷から獣除ネット沿いに植林の中を進み、休場の尾を下って林道ゲートに下山した。休場の尾と旧牛抱坂との交差点で、はつきり残っている旧牛抱坂を示したところ、日本山岳会から「2、3人で後日歩いてみる」との答えがあった。今中さんの車がゲートに駐車していたので、牛抱坂の登山口まで車の回収に向かっていた。その後小仲坊に帰り着いたが、数名は1.7kmの林道を歩いて戻られた。小仲坊に戻ってから1時間ほど五鬼助さん等と話をして池原に向かった。池原でいきなりの湯に入り、レストランで夕食、カフェでアイスコヒーを飲んでから小仲坊に帰った。池原までは35分だったが、小仲坊までは日没後で真っ暗だったの



早朝に出発

尾根広場に着く

池郷川を渡る

朝4時、発電機が動き出し照明が点灯、それと共に起き出した。昨夜は室内でも20℃以下で、久しぶりにエアコンなしで眠った。5時に朝食、お弁当をザックに入れて出発する。今日は日本山岳会9名の内3名が小仲坊に残り、残りの6名と私の合計7名の参加だ。

水源のステンレスタンクを越え、1120mの台地まで1時間とちよつと、小池宿跡に2時間弱で着いた。



小池宿跡で



広い沢筋を登る



コルに到着

ここ迄は過去に通っているので良く判っているが、この先の嫁越峠までは初めてのコースなので不安と期待が交錯する。小池宿跡の看板からちよつと上流側に古いテープが打たれている。このテープからほぼ東方向に広い沢を登っていく。僅かではあるが、幅60cm程度の道らしいものが残っている部分もあった。途中はあちこちの支流から水が流れていて、水の補給には困らない場所だ。200mほど登って明るいコルに着く。ここから堂ノ谷の源頭へ下る。コルからの下りは、はっきりと判る道跡が残っていた。20分で堂ノ谷に着く。この谷もきれいな水がふんだんに流れていた。大峰山脈の最深部で、上流に人工物は無いので水が汚れるはずがない。ここまで来たら、あとは200m上の奥駈道へ登るだけ。登りの途中から道らしきものが途絶えがちになり、シダや笹の中を歩くようになって

た。崩れている沢を渡る場所があり、慎重に通過した。



堂ノ谷源頭



奥駈道が近づく



嫁越峠の南側に出る

小仲坊を出発してから約4時間、嫁越峠の30mほど南の奥駈道に到達した。先頭の中久保氏のリードもあり、予想していたよりも早く嫁越峠に着くことが出来た。嫁越峠で休憩中に少し雨粒が落ちてきた。来た道に戻るか奥駈道を太古ノ辻経由で帰るかを協議した結果、全員が奥駈道を選択し太古ノ辻に向かって北上した。携帯電話が使えそうだったので、小仲坊に電話するが、通話状態が不安定で2度掛け直し、その後衛星携帯電話で再びかけて太古ノ辻経由で帰る事を伝えた。日差しはまったくなく、少し風もある。暑いことは無いが奥守岳への登りで大汗をかく。天狗山に11時前に着いたが、朝食を摂ってからすでに6時間経っているので、エネルギーの補給を行う。お弁当の3分の1程度を腹に詰め込んだ。天狗山の北面から蘇莫岳周辺にかけ、笹が繁って足元が見えないところが多く、声をかけて足元の注意を促した。12時過ぎに太古ノ辻に着き、20

分の昼食休憩を取る。2018年、大日岳の工事が終わって、撤収時にスコップ一本を太古の辻の岩陰にデポしたのを思い出して、探しに行くとすぐに見つかり、荷物も軽いので携えて持ち降ろした。



天狗山の北面



ニツ岩で休憩



小仲坊に帰着

太古の辻から前鬼への下りも、最初の100m位は笹が伸びて足元が見えない。おまけに水流で深く掘れた場所もあり登山道を脇にずらすことも考えなければならぬ。少し下った所で雨が降り出し、皆さん雨具を着用される。ニツ岩のすこし上方で、昨年山側に付け替えた登山道はちゃんと機能していた。ニツ岩で休憩。雨は止んでいたもので、着衣の調整を行っていただく。日本山岳会のメンバーにはここを歩くのが初めての人もいて、自然の造形に感嘆していた。階段が終わった所で休憩し水分補給を行う。稜線は涼しかったが、標高が下がり谷沿いで風も当たらないので、暑さを感じるようになっていた。太古の辻から2時間10分で小仲坊に帰り着いた。小池宿跡経由で嫁越峠まで4時間、嫁越峠から小仲坊まで5時間、合計

9時間13kmほどの山行だった。日本山岳会の皆さんお疲れ様でした。奥駈道の嫁越峠から太古の辻までは倒木無し、登山道の崩れ等の異常なし。天狗山から太古の辻までの笹刈りは必要だ。

### 行動タイム

(記：梶野)

小仲坊 05 : 42 → 06 : 52 尾根広場 ↓ 07 : 31 小池宿跡 07 : 36 → 08 : 14  
コル ↓ 08 : 40 堂ノ谷 ↓ 09 : 37 嫁越峠 09 : 41 → 10 : 20 奥守岳 ↓ 10 :  
46 天狗山 ↓ 12 : 12 太古の辻 12 : 25 → 13 : 30 ニツ岩 ↓ 14 : 37 小仲坊

予定の三日間はあっという間に過ぎ去った。

参加された皆さんはキャリアもあり、経験も豊富な方ばかりだったが、今回のコースは大満足で、前鬼の里も含めてよかったとのメールも沢山頂いた。ご協力頂いた梶野、青木、坂田、今中の4氏に厚くお礼申し上げます。